

1. 研究目的

都市部における待機児童問題を、地域性向上により解決することを本研究の目的とする。

2. 調査内容

社会背景として、都市部での待機児童数増加や地域住民の反対による保育園の新設延期などの問題がある。そこで参考となる保育施設の現地調査を行った。

・現地調査①とりつだいさくらさく保育園(目黒区)
(概要)住民の反対運動により新設を延期している。
(内容)近隣住民計 10 人(子供連れ含む)を対象に反対運動に関するインタビューを行った。

・現地調査②藤幼稚園(立川市)
(概要)ユニークな園舎構造で注目を集めている。
(内容)幼稚園主催の見学会に参加し、園長先生へのインタビューを行った。

[現地調査結果]

調査①では、インタビューに対して全員が知らない回答で、地域の関心が薄いと考えられる。また、新設予定場所は、閑静な住宅街であり、土地的な問題も挙げられる。調査②のインタビューでは、近隣からの苦情がないことがわかり、地域住民への配慮がなされていると考えられる。見学会には、メディア関係者・保護者を含め総勢 200 人以上が参加していたことから、周囲の関心の高さが伺えた。

以上の調査結果から、問題のポイントとなるのは住民の関心の薄さや、児童の声などによる騒音問題、またこれまでの保育所の閉鎖的なつくりなどが挙げられる。これらの根底にあるのは、地域住民との連携不足であることがわかった。

3. コンセプトおよびアイデア展開

調査の分析から、以下のコンセプトを導き出した。

< 地域参加型の保育施設園舎の提案 >

- ・とりつだいさくらさく保育園の新設予定地をモデルに提案
- ・園舎の一部を地域住民が利用できる構造にし、地域と保育所双方の理解を高める

4. 試作モデルによる検証

本校育英寮と八王子コンソーシアムにおいて試作モデルを展示・発表し、検証を行った。この試作モデルでは、住民利用可の構造に加え、保育室を地下と屋上に分けることで、騒音問題に配慮した。



図1 試作モデルと展示の様子

[検証結果からの改善点]

- ・災害時・緊急時に対する安全性の不足
- ・プライバシー保護の強化
- ・2階部分のより有効的な活用法の検討
- ・保育室と休憩スペースのエントランスの区別
- ・地域連携に成功している保育所の要素の反映

5. 最終提案

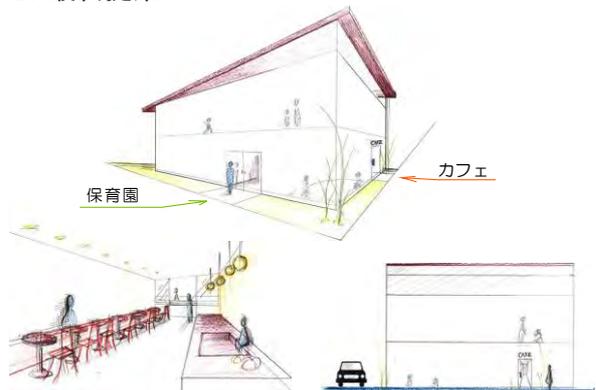


図2 最終提案スケッチ

- ・保育園の厨房を利用し、地域住民向けのカフェを併設することで利用者や地域との一体感を生む。
- ・園舎の壁材をすりガラスの様な半透明材にし、内部を少し解放することで通行人の親近感を生む。
- ・開放的な構造にしつつも、カフェと保育園の入口は分け、双方のプライバシーを保護する。

6. 今後の発展

本提案を建築・保育関係者へアプローチすることで、より現実的な検討が可能になる。また、実際に問題が起きている地域や、反対に地域連携に成功している現場での検証が必要になる。

文献

- [1]5050 園児の主要活動時における発生音特性：保育園における保育室内の音環境の実態に関する研究、学術講演梗概集. 2011, 133-134, 2011-07-20
- [2]家庭的環境を提供する地域に開いた子育て施設 子どもの村東北 90(5), 50-61,192-193, 2015-04
- [3]厚労省/全国の待機児童数等を公表 保育所等関連状況取りまとめ【2015(平成27)年4月1日】厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課 保育情報 (468), 22-37, 2015-11